

## 1. 略歴

1987年4月	宮城教育大学教育学部小学校教員養成課程入学
1991年3月	同 卒業
1991年4月	仙台市立八幡小学校教諭（～1994年3月）
1994年4月	東北大学大学院国際文化研究科国際交流論専攻博士課程前期入学
1996年3月	同 修了、修士（国際文化）
1996年4月	東北大学留学生センター教育補助員（～1998年3月）
2002年9月	宇都宮大学留学生センター講師（～2007年10月）
2006年10月	東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻博士後期課程入学
2007年11月	宇都宮大学留学生センター准教授（～2012年3月）
2008年4月	宇都宮大学大学院国際学研究科准教授（～2019年3月）
2010年3月	東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻博士後期課程修了、博士（学術）
2012年4月	宇都宮大学留学生・国際交流センター准教授（組織名変更）（～2017年3月）
2017年4月	同 学術院准教授（国際学部・国際学研究科責任教員、改組）（～2020年8月）
2019年4月	同 大学院地域創成科学研究科准教授（改組）（～2020年8月）
2020年9月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

## a 主要業績

## (1) 博士論文

「日本語学習者のパラフレーズ使用に関する研究——中国語・韓国語を母語とする上級学習者を対象に——」、全94頁、東京工業大学、2010年3月

## (2) 単著

『第二言語によるパラフレーズと日本語教育』（日本語教育の新潮流10）、全140頁、ココ出版、2015年2月

## (3) 共著

平成19年度宇都宮大学特定重点推進研究グループ（編）『栃木県における外国人児童生徒教育の明日を考える』、担当部分：第III部第1章「外国人児童生徒に対する日本語指導の課題と展望」（133-142頁）、全166頁、宇都宮大学、2008年3月

仁科喜久子（監修）、鎌田美千子・曹紅荃・歌代崇史・村岡貴子（共編）『日本語学習支援の構築——言語教育・コーパス・システム開発——』、担当部分：「まえがき」（3頁）、「第二言語としての日本語によるパラフレーズの問題とその教育方法——アカデミック・ライティング教育の観点から——」（63-76頁）、全291頁、凡人社、2012年3月  
宇都宮大学国際学部（編）『世界を見るための38講』、担当部分：第20講「日本語教育とその学び——他者への視点・ことばへの認識・パラフレーズ——」（113-117頁）、全211頁、下野新聞社、2014年11月

東北大学高度教養教育・学生支援機構（編）『責任ある研究のための発表倫理を考える』、担当部分：第6章「言語教育から引用の問題を考える——パラフレーズを中心に——」（107-127頁）、全163頁、東北大学出版会、2017年3月  
宇都宮大学国際学部（編）『多文化共生をどう捉えるか』、担当部分：「教科書の文章とパラフレーズ——日常語・抽象語・背景知識・主体的な学び——」（165-169頁）、全183頁、下野新聞社、2018年10月

村岡貴子・鎌田美千子・仁科喜久子（共編）『大学と社会をつなぐライティング教育』、担当部分：第2章「大学教育から見たパラフレーズの諸相」（15-33頁）、全223頁、くろしお出版、2018年12月

石黒圭・烏日哲（編）、井伊菜穂子・鎌田美千子・胡芸群・胡方方・田佳月・黄均鈞・布施悠子・村岡貴子（共著）『どうすれば論文・レポートが書けるようになるのか——学習者から学ぶピア・レスポンス授業の科学——』、担当部分：第3章「論文作成におけるパラフレーズの展開——学習者は表現をどのように言い換え改善するのか——」（49-71頁）、全283頁、ココ出版、2020年2月

## (4) 論文

「地域の日本語教授者養成における遠隔教育——テレビ会議システムを用いて——」（梅木由美子と共著）、『外国文学』50号、61-71頁、2001年3月

- 「日本語教育における長期的なレポート課題の試み——学部留学生への上級日本語作文教育——」、『外国文学』52号、79-85頁、2003年3月
- 「学部留学生の発表活動に必要な日本語文章表現指導——レジュメ・提示資料に見られる問題点とその指導——」、『外国文学』54号、53-66頁、2005年3月
- 「栃木県における外国人児童に対する日本語教育——外国人児童生徒教育拠点校を中心に——」、『外国文学』54号、67-90頁、2005年3月
- 「栃木県における外国人児童生徒の日本語教育環境——外国人児童生徒教育環境実態調査を通して——」、『外国文学』55号、53-81頁、2006年3月
- 「日本語 OPI データベース化をめぐる諸問題」、『日本語・日本文化講座夏期セミナー第4回 OPI 国際シンポジウム報告・論文集』（遠藤藍子・菅谷奈津恵と共著）、99-106頁、2006年3月
- 「学部留学生は大学生活でどのような日本語の問題を抱えているのか——宇都宮大学における日本語・日本事情教育のあり方に関する調査研究——」、『宇都宮大学留学生センター年報』2号、37-44頁、2006年5月
- 「年少日本語学習者によるストーリーテリング作文の特徴」、『外国文学』56号、45-62頁、2007年3月
- 「プレゼンテーション文書作成に見られる留学生の日本語パラフレーズ——原文からの引用における箇条書きに着目して——」、『外国文学』57号、31-46頁、2008年3月
- 「第二言語としての日本語運用に見られるパラフレーズの分析——和語動詞からのパラフレーズを中心に——」（仁科喜久子と共著）、『日本文化研究』28号、113-130頁、2008年10月
- 「文章の難易度とパラフレーズとの関係——中国人・韓国人日本語学習者と日本語母語話者の比較——」（仁科喜久子と共著）、『日本語教育論集』25号、19-33頁、2009年3月
- 「留学生の日本語パラフレーズにおける語彙の使用——アカデミック・ライティングのための語彙指導との関連から——」、『外国文学』58号、19-30頁、2009年3月
- 「解答形式の違いに見られる JSL 児童生徒の言語運用——パラフレーズに着目して——」、『宇都宮大学国際学部研究論集』27号、169-176頁、2009年3月
- 「文体の違いへの対応に見られるパラフレーズの分析——留学生の要約文における語の使用に着目して——」、『外国文学』59号、9-25頁、2010年3月
- 「具体例からの抽象化に伴うパラフレーズの分析——文体の違いを文章・談話レベルから考える——」、『外国文学』60号、55-66頁、2011年3月
- 「留学生を対象としたパラフレーズ教材の必要性と教材開発——日本語アカデミック・ライティング教育の観点から——」、『外国文学』61号、1-13頁、2012年3月
- 「『日本語教育プログラム』の構築と今後の展望——宇都宮大学を事例に——」、『宇都宮大学留学生教育研究論集』3号、2-13頁、2012年6月
- 「第二言語としての日本語によるパラフレーズの諸相——ライティングにおける引用を中心に——」、『第二言語としての日本語の習得研究』18号、135-149頁、2015年12月
- 「日本語を第二言語とする子どもたちのためのリライト教材作成に関する方法論的検討——日常会話レベルから教科書レベルへの橋渡し——」、『宇都宮大学留学生教育研究論集』7号、3-10頁、2016年8月
- 「指導段階および教科の違いに応じた教科書リライトの方法論的検討——日本語を第二言語とする子どもたちへの学習支援に向けて——」、『宇都宮大学国際学部研究論集』47号、33-39頁、2019年2月
- 「日本語教授法とパラフレーズの学習」、『日本語教育連絡会議論文集』vol.31、110-117頁、2019年3月
- 「第二言語としての日本語による視写と黙読の効果——レポート・論文表現の学習に向けた実証研究——」（板垣信哉と共著）、『宇都宮大学国際学部研究論集』49号、41-49頁、2020年2月
- 「パラフレーズに着目した日本語指導書開発のための一考察——質問紙調査から見てきた課題——」、『宇都宮大学国際学部研究論集』49号、51-59頁、2020年2月

(5) 教材

- 『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』（仁科浩美と共著）、スリーエーネットワーク、本冊 74頁+別冊 15頁、2014年3月
- 『大学の授業やゼミで話すためのパラフレーズ演習』、宇都宮大学鎌田美千子研究室、全38頁、2018年12月
- 『パラフレーズから考える日本語教授法』、宇都宮大学鎌田美千子研究室、全123頁、2020年2月

(6) 学会発表

- 「格助詞「に、で」の習得における意味役割の発達の分化」（佐藤滋と共同発表）、言語処理学会第2回年次大発表論文集、429-432頁、東京都、東京工業大学大岡山キャンパス、1996年3月

- 「日本語の格助詞「に」の意味領域に対応する韓国語の助詞」(朴奉相・佐藤滋と共同発表)、言語処理学会第4回年次大会発表論文集、123-126頁、福岡市、九州大学、1998年3月
- 「地域の日本語教育におけるテレビ会議システムの活用」(梅木由美子と共同発表)、教育工学関連学協会連合第6回全国大会講演論文集、第二分冊、245-246頁、鳴門市、鳴門教育大学、2000年10月
- 「大学と地域を結ぶ情報メディアの活用——テレビ会議システムを用いて——」(梅木由美子と共同発表)、日本語教育国際シンポジウム Proceedings——21世紀型総合的日本語教育における語学・文学・文化及びメディアのあり方——、422-426頁、ソウル特別市(韓国)、同徳女子大学、2000年11月
- 「簡潔にまとめる」ための日本語上級文章表現の指導」(虫明美喜と共同発表)、日本語教育方法研究会誌 vol.12 no.1、16-17頁、東京都、東京工業大学大岡山キャンパス、2005年3月
- 「日本語 OPI データベース化をめぐる諸問題」(遠藤藍子・菅谷奈津恵と共同発表)、第4回 OPI 国際シンポジウム予稿集、54-57頁、函館市、函館国際ホテル、2005年7月
- 「発表ツールにおける箇条書き分析——表現形式と言い換え部分に着目して——」(仁科喜久子と共同発表)、CASTEL-J in Hawaii 2007 Proceedings (The Fourth International Conference on Computer Assisted Systems for Teaching and Learning Japanese)、191-194頁、ホノルル市(アメリカ合衆国)、University of Hawaii, Kapiolani Community College、2007年8月
- 「日本語学習者のパラフレーズと文章の難易度」(仁科喜久子と共同発表)、言語処理学会第14回年次大会ワークショップ「教育・学習を支援する言語処理」論文集、55-58頁、東京都、東京大学駒場キャンパス、2008年3月
- 「問題解答形式の違いに見られる年少日本語学習者の言語運用——構文的パラフレーズに着目して——」、日本語教育学世界大会 2008 予稿集 1 (International Conference on Japanese Language Education 2008)、388頁、釜山広域市(韓国)、釜山外国語大学、2008年7月
- “Japanese Language Learners’ Use of Paraphrasing in Summarizing from Spoken Discourse to Written Discourse” (Kikuko Nishina と共同発表)、JSAA-ICJLE (Japanese Studies Association of Australia International Conference on Japanese Language Education 2009)、シドニー市(オーストラリア)、University of New South Wales、2009年7月
- 「文体の違いに対する日本語学習者のパラフレーズ——具体例からの抽象化に着目して——」、世界日語教育大会論文集予稿集 2010 (International Conference on Japanese Language Education 2010)、1136-1~1136-7頁、台北市(台湾)、国立政治大学、2010年8月
- 「日本語アカデミック・ライティング教育におけるパラフレーズ教材の必要性和開発の試み」(仁科浩美と共同発表)、日本語教育学会研究集会東北地区予稿集、21-26頁、仙台市、宮城教育大学、2010年11月
- 「アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ教材の試行と学習者評価」(仁科浩美と共同発表)、日本語教育方法研究会誌 vol.19 no.1、16-17頁、東京都、国際基督教大学、2012年3月
- 「アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ教材における問題作成上の課題——要約における意味の統合に着目して——」、2012年度日本語教育国際大会予稿集第2分冊、(International Conference on Japanese Language Education 2012)、167頁、名古屋市、名古屋大学東山キャンパス、2012年8月
- 「パラフレーズに着目したアカデミック・ライティング指導の実践——レポートの文章を中心に——」(仁科浩美と共同発表)、2013年度第9回日本語教育学会研究集会(愛媛)発表要旨、<http://www.nkg.or.jp/old/kenkyu/kenkyushukai/2013/kk-13-09yoshi.pdf>、松山市、愛媛大学、2013年11月
- 「JSL 児童生徒への学習支援を目的としたリライトにおける背景知識の扱いとその課題——大学生・教員を対象とした教材「リライト作成タスク」の試案——」、2014年度異文化間教育学会第35回大会発表抄録、106-107頁、京都市、同志社女子大学今出川キャンパス、2014年6月
- 「教科書のリライトにおけるパラフレーズの分析——「リライト作成タスク」の開発と実践に向けて——」、International Conference on Japanese Language Education 2014、<https://icjle2014.arts.unsw.edu.au/jp/program?id=805&t=ppid>、シドニー市(オーストラリア)、University of Technology, Sydney、2014年7月
- 「言語景観に着目した漢字テキスト作成の実践と課題——PBL の手法に基づいて——」、日本語教育方法研究会誌 vol.21 no.2、50-51頁、札幌市、藤女子大学、2014年9月
- 「第二言語としての日本語によるパラフレーズと引用——文章から意味を読み取って表す——」、第25回第二言語習得研究会(JASLA)全国大会予稿集(招待パネリスト)、18-23頁、つくば市、筑波大学筑波キャンパス、2014年12月
- 「JSL 児童生徒への教科学習支援を目的としたリライト試案——プロフィシェンシーの観点から和語動詞に着目して——」、第10回 OPI 国際シンポジウム基調講演・パネルディスカッション・研究発表予稿論集、111-114頁、函館市、函館国際ホテル、2015年7月

- 「パラフレーズに関する指導書の開発の試み——複数の言語技能の組み合わせに注目して——」、2016 年度日本語教育学会秋季大会予稿集、225-226 頁、松山市、ひめぎんホール、2016 年 10 月
- 「評価の視点から見たパラフレーズの問題——アカデミック・ライティングにおける引用を中心に——」、第 40 回アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会「アカデミック・ジャパニーズにおけるパフォーマンス評価としてのルーブリックを考える」(招待パネリスト)、京都市、龍谷大学セミナーハウス、2016 年 11 月
- 「聞き手との対話を意識したプレゼンテーション教材開発の試み」(仁科浩美と共同発表)、2016 年度日本語教育学会支部集会第 8 回中国地区(山口)研究発表・講演予稿集、109-114 頁、山口市、山口大学吉田キャンパス、2016 年 12 月
- 「主体的に考える力を重視した専門教育の試み——大学の日本語教育科目における文献講読からレポート課題まで——」、日本語教育方法研究会誌 vol.23 no.2、56-57 頁、仙台市、宮城教育大学、2017 年 3 月
- 「日本語を第二言語とする子どもたちを対象とした教科書リライトの二つの方向性と検討課題」、2017 年度異文化間教育学会第 38 回大会発表抄録、42-43 頁、仙台市、東北大学川内キャンパス、2017 年 6 月
- 「口頭でのパラフレーズに関する教材開発の試み——複数の言語技能の組み合わせを中心に——」、2017 年度日本語教育学会支部集会予稿集、15-20 頁、仙台市、東北大学川内キャンパス、2017 年 12 月
- 「日本語を第二言語とする子どもたちへの学習支援におけるパラフレーズの問題——社会文化的な背景知識を必要とする場合と必要としない場合——」、2018 年度異文化間教育学会第 39 回大会発表抄録、94-95 頁、新潟市、新潟大学五十嵐キャンパス、2018 年 6 月
- 「日本語教育におけるパラフレーズの扱いを再考する——「考える」ために必要な視点——」、批判的言語教育国際シンポジウム——未来を創ることばの教育をめざして——、口頭発表/ポスター発表要旨、15 頁、東京都、武蔵野大学有明キャンパス、2018 年 7 月
- 「パラフレーズの学習に着目した日本語指導書の試案——質問紙調査から見えてきた課題——」、International Symposium Japanese Learning for New Generations: Book of Abstracts-Brochure、13 頁、プーラ市(クロアチア共和国)、Juraj Dobrila University of Pula、2018 年 9 月
- 「日本語教授法とパラフレーズの学習」、第 31 回日本語教育連絡会議、講演番号 25、プーラ市(クロアチア共和国)、Juraj Dobrila University of Pula、2018 年 9 月
- 「国際学系学部の日本語教育科目における「モデルプログラム」の活用——年少者向け日本語教科書とシラバスをテーマにした授業実践を通して——」、公益社団法人日本語教育学会 文部科学省委託「外国人児童生徒等の教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」シンポジウム 2018、1-5 頁、東京都、TKP 品川カンファレンスセンター、2019 年 2 月
- 「大学・大学院のライティングにおけるパラフレーズと教育上の課題——ピア・レスポンスの事例からの考察——」、パネルセッション「大学における日本語ライティング教育の課題と可能性——言語スキル養成からライティング支援人材の育成まで——」、2019 年度日本語教育学会春季大会予稿集、64-66 頁、つくば市、つくば国際会議場、2019 年 5 月
- 「第二言語としての日本語の作文添削における大学生の学びの可能性と課題——大学での年少者日本語教育の授業実践からの考察——」、2019 年度異文化間教育学会第 40 回大会発表抄録、82-83 頁、東京都、明治大学中野キャンパス、2019 年 6 月
- 「中国語を母語とする児童を対象とした教科書リライトにおける漢字の扱い——学習支援に向けた「リライトのための日中漢語対応表」の作成と活用——」(劉琮と共同発表)、子どもの日本語教育研究会第 4 回研究会、[https://www.kodomo-no-nihongo.com/files/uploads/ポスター7\\_鎌田美千子.pdf](https://www.kodomo-no-nihongo.com/files/uploads/ポスター7_鎌田美千子.pdf)、東京都、港区立筭小学校、2019 年 10 月
- 「国際学部でのモデルプログラムの活用とその教育方法——専門教育科目「日本語教育方法論」での活用事例をもとに——」パネルセッション「教師教育の課題と可能性——外国人児童生徒等教育を担う教員の養成と研修に焦点を当てて——」、2020 年度日本語教育学会春季大会予稿集、45-47 頁、東京都、一橋大学、2020 年 5 月

## (7) 研究報告書

- 『情報通信技術(IT)を活用した日本語教育の在り方に関する調査研究協力者会議報告書「情報通信と日本語教育」』、担当部分:第 2 章「情報通信技術を活用した事例 教材・教授・教育交流 (3) テレビ会議システムの活用」(122-125 頁)、全 233 頁、文化庁、2003 年 3 月
- 『宇都宮大学平成 16・17 年度重点推進研究報告書「外国人児童生徒の教育環境をめぐる問題——栃木県内の現状と課題——」』、担当部分:「栃木県における外国人児童生徒をめぐる教育環境」(7-23 頁)、全 67 頁、宇都宮大学、2006 年 3 月
- 『留学生センター・シンポジウム 2006 地域社会の国際化に果たす大学の役割 報告書』、担当部分:「宇都宮大学における地域日本語教育人材養成支援」(23-28 頁)、全 84 頁、茨城大学留学生センター、2007 年 1 月

- 『平成19年度～平成21年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書「日本語学習者の文章産出におけるパラフレーズに関する研究」、単著、全63頁、宇都宮大学鎌田美千子研究室、2010年3月
- 『日本語教育ワークショップ報告書—ことばを言い換えて伝えるために知っておきたい三つのこと—』、単著、全67頁、宇都宮大学鎌田美千子研究室、2016年3月
- 『平成30年度文部科学省委託「外国人児童生徒教育を担う教員の養成・研修プログラム開発事業」事例集 モデルプログラムの活用』、担当部分：第5章「養成・研修の事例 No.3 日本語教育方法論 宇都宮大学」(42-49頁)、全151頁、公益社団法人日本語教育学会、2019年3月

**(8) 共同研究・競争的資金等**

- 2007年～2008年度 科学研究費補助金特定領域研究「日本語学習者作文支援のための共起表現・例文表示システム構築と評価(課題番号/領域番号19011002、研究分担者)
- 2007～2009年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「日本語学習者の文章産出におけるパラフレーズに関する研究」(課題番号19520442、研究代表者)
- 2007～2009年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「第二言語としての日本語ライティング評価—Good writingのさらなる追求—」(課題番号19520448、研究分担者)
- 2010～2012年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「日本語学習者のライティング能力向上を目指したパラフレーズ教育方法に関する研究」(課題番号22520518、研究代表者)
- 2013～2015年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「JSL 児童生徒への教科学習支援におけるパラフレーズの活用—文章理解を中心に—」(課題番号25370575、研究代表者)
- 2014～2017年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「大学・大学院でのキャリア形成に資する在学段階別日本語ライティング教育の開発と評価」(課題番号26284072、研究分担者)
- 2016～2019年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「パラフレーズの教育方法に関するハンドブックの開発—理論・実践・応用—」(課題番号16K02796、研究代表者)
- 2019～2022年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「日本語読解・ライティングの方法に影響する母語・母文化の教育的背景要因に関する研究」(課題番号19H01269、研究分担者)
- 2020～2023年度 科学研究費補助金基盤研究(B)「日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成—批判的思考を中心に—」(課題番号20H01270、研究代表者)

**(9) 受賞**

- 2017年3月 日本語教育方法研究会 第9回優秀賞

**3. 主な社会活動**

**(1) 非常勤講師等**

宇都宮大学国際学部(2000年4月～2002年8月)

国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」共同研究員(2017年4月～現在)

**(2) 学会**

日本語教育学会 学会誌委員会 査読協力者(2011年4月～2016年6月)

専門日本語教育学会 幹事(2013年4月～2016年3月、2020年4月～現在)

国立大学日本語教育研究協議会 理事(2016年5月～2020年5月)

公益社団法人日本語教育学会 審査・運営協力員(2016年7月～現在)

大学日本語教員養成課程研究協議会 理事(2017年6月～2018年5月)

大学日本語教員養成課程研究協議会 副代表理事(2018年6月～現在)

**(3) 社会貢献**

那須塩原市国際交流協会 日本語指導者養成講座 講師(2000年6月～現在)

栃木県国際交流協会 日本語ボランティア養成講座 講師(2002年12月)

真岡市外国人児童生徒教育研究会 研修会 講師(2004年10月、2011年10月)

栃木県小学校教育研究会 夏季一斉研修日本語教育部会研修会 講師(2005年8月、2007年7月)

文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」モデルプログラム検証のための協力者会議 委員(2018年7月～2019年3月)

一般社団法人ふくしま多言語フォーラム 外国人散在地域(東北地方・福島県)における外国人児童生徒に対する日本語教師初任者研修カリキュラム開発事業 講師(2019年9月)